

間質性膀胱炎（IC） とは？

間質性膀胱炎（Interstitial Cystitis、以下 IC）

とは慢性的な膀胱の炎症のことですが、その原因は明らかではありません。

一般的に知られる膀胱炎は細菌による尿路感染で、通常は抗生物質がよく効きます。一方、*IC の原因は細菌ではない*

とされ、従来の抗生物質による療法は効きません。また、この病気は心身症ではなく、ストレスによって引き起こされるものでもないということに留意する必要があります。

どんな人が IC に罹る？

IC

は、年齢、人種、性別を問わず発病しますが、特に女性に多くみられます。また、最近の疫学データにより、米国内には70万人以上の患者がいることが推定されています。

症状

IC には、下記の一部またはすべての症状がみられます。

頻尿：日中、夜間を問わず頻尿で、重症例では1日60回もの頻尿になります。病気の早期や症状の穏やかな時は、頻尿が唯一の症状という場合もあります。

切迫感：直ちに排尿しなければならないという切迫感は、痛みや圧迫感、痙攣を伴うことがあります。

痛み：痛みの部位は下腹部や尿道、または膣のあたりですが、性交に痛みが伴うこともよくあります。男性では、睾丸、陰囊およびまたは会陰部、射精時に痛みを覚えることがあります。

その他の障害：

上記の一般的な症状以外に、筋肉や関節の痛み、偏頭痛、アレルギー反応、胃腸障害等を訴える患者もいます。さらに、IC

は、婦人科疾患、線維筋痛、過敏性腸症候群等と合併することがあるようですが、詳し

いことはわかっていません。しかし、ほとんどの患者は膀胱部の症状のみを訴えています。

診断

ほとんどの患者が、ICの診断を得るまでに苦労を強いられています。泌尿器科医は、正しい診断を行うために次のようなステップを踏む必要があります。

尿培養を行い、細菌による感染があるかどうかを判定します。

IC

に似た症状を伴う他の疾患を除外します。これらの疾患には、膀胱癌、腎疾患、結核、膣感染症、性病、子宮内膜症、放射線膀胱炎、神経症などがあります。

感染がみられず、他の疾患も見つからない場合は、全身麻酔下、水圧拡張術を用いた膀胱鏡検査を行います。麻酔や水圧拡張を行わない通常の膀胱鏡検査では、ICの所見が得られないことがあるばかりか、この病気を持っている人には痛い検査となります。また、この病気に特徴的な膀胱壁の点状出血を確認するためにも、全身または局部麻酔下での膀胱拡張術を行う必要があります。同時に、組織検査を行って膀胱腫瘍等がないことを確かめます。なお、ICは膀胱癌の合併症ではありません。

治療

現在のところ、ICを治すことはできず、誰にでも効く有効な治療法というものはありません。しかし、ほとんどの患者は次のような治療法のいずれか、またはいくつかを併用することによって病状をコントロールしています。

経口薬

ELMIRON®（ペントサン多硫酸ナトリウム）：米国では、Elmironは1996年にFDA（米国食品医薬品庁）の認可を受けており、現在のところ、IC治療用として認可されている唯一の経口薬です。薄くなったり傷ついたりした膀胱の内壁を修復する働きがあるとされています。

抗うつ剤：Elavil®（アミトリプチリン）のような三環系抗うつ剤は、ICによる痛みや頻尿を緩和する働きがあるとみられています。IC患者においては、これらの薬はうつの治療薬としてではなく、鎮痛剤として用いられます。

その他の経口薬：抗炎症薬、鎮痙薬、Urimax®などの膀胱鎮痛薬、抗ヒスタミン薬、筋肉弛緩薬などがあります。

膀胱内注入

膀胱拡張：全身麻酔下、水圧による膀胱の拡張を行います。これは診断手順の一部であるとともに、治療法として用いられることもあります。

DMSO（ジメチルスルホキシド）：この薬は直接膀胱に注入されるもので、抗炎症剤として作用するため痛みを緩和すると言われています。**DMSO**はステロイド、ヘパリン、およびまたは局所麻酔と併用することができます。

BCG（バチルス・カラメット-ゲラン菌）：この療法は現在臨床試験段階にあり、米国では未だIC治療薬としてのFDA（米国食品医薬品庁）認可を受けていません。免疫を活性化することで効力を発揮するとみられています。

CYSTISTAT®（ヒアルロン酸）：この療法も現在臨床試験段階にあり、米国では未だIC治療薬としてのFDA（米国食品医薬品庁）認可を受けていません。膀胱内壁の欠損部を取り替える働きがあるとされていますが、効力については現在のところわかっていません。

その他の膀胱内注入 Clorpactin WCS-90（次亜塩素酸）の注入は激しい痛みを伴うため、全身麻酔が必要となりますが、希釈したものが通常の設定で注入されることもあります。硝酸銀は稀にしか使われておらず

、時代遅れであるとされています。

その他の療法

食生活：酸っぱいものや辛いものを摂取しないことで、ICの症状を軽減できる場合があります。たばこ、コーヒーや紅茶、アルコール類が病状を悪化させることもあります。

自己治療：自己治療のテクニックは、生活の質を向上させ、悪化や再発の危険性を軽減するのに役立ちます。これには、食生活の変更、ストレスの軽減、視覚化、バイオフィードバック（生体自己制御）、膀胱の再訓練とエクササイズ等が含まれます。

電子神経刺激器：

経皮電子神経刺激器

(TENS)：このデバイスを体外に装着することで膀胱の痛みが緩和されるケースもあります。

仙椎神経刺激器の埋め込み (Sacral Nerve Stimulation

Implants)：手術によって埋め込まれるこれらのデバイスは、尿失禁、切迫感、頻尿の治療用として米国では認可されています。IC

による痛みの治療法としては未だ

FDA（米国食品医薬品庁）の認可を受けていませんが、現在、試験が行われているところです。

手術：病状が重く、他の治療法も効果がないといった稀なケースでは、膀胱の手術も考えられます。IC

の治療には、膀胱切除や尿路変更を含むいくつかの手術が適用されてきましたが、手術をしても症状が緩和されないことがあります。レーザーによる手術は、Hunner's Ulcers を伴うICにのみ適用されるべきです。

これらの治療法に関するパンフレットやファクトシートは、*The Interstitial Cystitis Association (ICA)* から取り寄せることができます。

THE INTERSTITIAL CYSTITIS ASSOCIATION (間質性膀胱炎協会)

The Interstitial Cystitis Association (ICA) は、IC を患うすべての

人々のために設立された組織であり、この種の組織としては**米国で唯一**の全国的非営利団体です。以下、その目的をご紹介します。

- ICに関する最も完全で最新の情報を提供すること。
- IC患者やその家族、友人のための支援ネットワークを提供すること。
- 医療関係者や一般の人々を対象とした IC 教育を行うこと。
- 公共および民間企業に対し、研究資金の援助や患者の権利について提唱すること。
- ICの治療法を開発するための研究資金調達および提供。

進展と希望

IC が個人に及ぼす影響を軽視することはできません。IC は患者を衰弱させ、虚脱感や絶望感をもたらすことがあります。しかし、ICA が医療関係者たちに対してこの病気の重大さを訴えてきた結果、大きな進歩が得られました。

今日では、医療関係者や一般の人々の間で、IC についての認識や理解がかつてないほど高まっています。民間や公共の出資により、有効な治療法の開発に向けての研究も進行中です。そして IC が克服される日まで、ICA は、この病気に関する情報を提供し、教育や支援を行うことによって、患者やその家族を応援し続けます。さらに、医療関係者や一般の人々を教育し、IC 研究資金調達のための努力をし続けます。

医学博士ヴィッキ・ラトナーの ストーリー

医学生だった頃のある日、私は膀胱に激しい痛みを感じるようになりました。しかし、行き付けの医者に診てもらっても一向に埒が明きませんでした。14人もの医者とは

年の歳月を経た後、私は自ら医学図書館へ出向き、ICに関する文献を探し出しました。その後、全身麻酔下での膀胱鏡検査が行われ、やっとのことでICの診断が下されました。1984年、私は、この苦しい病気を患う何十万ものアメリカ人への情報提供と支援、そしてより有効な治療法を開発するための資金調達を目的に、*Interstitial Cystitis Association (ICA)* を設立しました。

当初、医療関係者たちはICという病気について懐疑的だったり、あるいはその存在自体を知りませんでした。また、的確な診断を得るまでに何人もの医者を訪ね歩くというのが典型的なパターンでした。今日では多くの治療法があり、研究も進み、診断も早くなり、「この病気に苦しんでいるのは自分だけではない」ということを多くの患者が知り、希望を持つようになりました。このような進歩にはICAのたゆまぬ努力も貢献していると、私たちは自負しています。ICAの情報があなたのお役に立ちますよう、そしてもしあなたがICに罹っているとお考えの場合は、医師とのご相談にあたってこの情報を活用していただければ幸いです。

ICA の業績

ICAはその発足以来、IC患者への支援、医療関係者および一般人へのIC教育、研究の促進において、飛躍的な進歩を遂げてきました。ICAではオンラインおよび全米から利用可能な電話によるマンツーマン相談窓口を提供しているほか、世界中のIC組織に対しても情報提供を行っています。

ICAの代表者は毎年、連邦議会において、米国立衛生研究所(NIH)を通じての研究資金を獲得すべく証言を行ってきました。その結果得られた資金により、多数の文献が発行されました。NIHを通じての資金に加え、ICA自らも100万ドル以上の研究資金を調達しており、この分野でトップレベルの医師たちをNational Medical Advisory Board (国立医学諮問委員会) に招くことに成功しています。また、ICAの全国会議や科学シンポジウムには、全世界から優秀な研究者たちが集まってきます。

書籍、ニュースレター、パンフレット、ファクトシート、文献のコピー、ビデオ、カセット等、ICAは非常に多くの資料を提供していますが、中でも最も役に立つのはウェブ

サイトwww.ichelp.orgでしょう。インターネットのご利用が可能な方は、このサイトにアクセスすることにより（実際、毎月何千人もがアクセスしています！）、研究と治療に関する最新情報を得たり、ICAのパフレットやファクトシート、ニュースレター等の全文を読んだり、研究資金調達のためのサイバーキャンペーンに参加したり、資料やニュースレターを請求することができます。ICAはIC克服における真のリーダーとして、あなたとともに歩み続けることを望んでいます。